

—わたしたちの行動が次の時代のまちをつくる—

まちづくり会議

開催報告

第2回「まちの現実を考える」

—将来の課題（不安の種）を把握して
未来の物語を考える—



阿賀町 まちづくり観光課 まちづくり係

■開催日時・場所

令和元年9月26日（木） 午後7時から午後9時

阿賀町公民館 講堂

出席者 35名 欠席5名

■第2回ワークショップのプログラム

「**まちの現実を考える**」－**将来の課題（不安の種）を把握して未来の物語を考える**－

- ①誰のために何をしたいのか？【グループワーク】
 - ②なぜそうしたいのか？【町の現状から考える】
 - ③向かっている未来が近い人を探そう
 - ④未来日記を書く
-

■第2回ワークショップの概要

前回は「この町で何をしたいのか」同じ関心を持つ人を見つけ暫定チームをつくった。今回は望ましい未来の阿賀町はどんな町であってほしいのか（未来日記）を考えるために、「誰のために」「そう思った経験・感じたこと」をグループワークで考え、またなぜその事業を行いたいのか「まちの現状」を見て考えることとし、向かっている未来が近い人、同じベクトルの人を探すためのワークを行った。

町の現状については、主に人口の推移、産業の傾向、財政の状況について説明した（別添資料を参照）。

社人研の推計値、日本創生会議が2014年に発表した消滅可能性都市に関する資料、REASASから作成した資料、国勢調査小地域集計を加工したデータを参加者に提供した。

そしてワークシートによる個人ワークとグループ対話により、自分が取り組みたいこと、目的としたいことの解像度を上げてもらい、理念を同じくする人探しを行い、暫定で7チームあったが、今回は8チームとなり、前回構成したメンバーと異なる編成が6チームできた。

チームによる未来日記の作成を予定していたが、ベクトルの方向性の同じ人を探すためのワークの時間を十分にとったほうが良いと判断し、ワークに時間をかけ、チームの未来日記の作成は次回とすることにした。

■次回の展開

次回からはいよいよ「まちづくりの種を育てるために必要なこと」として今回編成されたチームでアクションプランをつくっていくためのワークを行っていく。今回は主に今回使用したワークシートを改良したものとフレームワークを用いて、チームとしての未来日記を作成していく。



ワークシート (一部のみ掲載)

①誰のために...
その人がどうあってほしい?
21 若者が!! 農業を職業として選択できる様になる(ほしい) ②

②そう思ったきっかけは? (経験・感じたこと) (☺)
・自分がやりたい。
・小供が就農した。正直、キツイ(金に足りない)
(将来が不安)

③現状、〇〇が〇〇だから②のように思ったのか?
阿賀町の「米どころ」なのに若者が農業を選択しない
「農業がセウがかりない」訳ではないが
農業を目指す人が「阿賀町」を選択する様、町に
なってほしい。

望ましい未来の阿賀町はどんな町であってほしいのか【未来日記】
楽しく農業できる → うれ子 → せうがる
↑ ↓
おれが → 町に → 町に →
おれが → 町に → 町に →

④そのために何をやりたいのか (手段・解決策) (☺)
気軽に農業が出来る様にした。
(機械・施設)

①誰のために...
その人がどうあってほしい?
27 こともや若者達が地域にほしを寄 (ほしい!) ②

②そう思ったきっかけは? (経験・感じたこと) (☺)
町外に出ていく人が多い
地域の事や自然の利用方法を知らない人が多い。

③現状、〇〇が〇〇だから②のように思ったのか?
働き先が少ない。魅力がわからない
お店が少ない。自然を利用する手段がわからない。

望ましい未来の阿賀町はどんな町であってほしいのか【未来日記】
住民が阿賀町の魅力を誇れるように
なってほしい。

④そのために何をやりたいのか (手段・解決策) (☺)
様々な体験をする機会をつくる。
(農業・田植え・柏刈り・山菜採り・つり
川・水泳・BBQ・雪遊び(雪合戦・タヤリ))